



今秋の10月11日(土)、12日(日)、13日(月・祝日)の3日間、西予市宇和町を中心としてまちづくり・地域づくりの全国大会「第31回全国町並ゼミ卯之町大会」を開催します。この町並ゼミは、NPO法人全国町並み保存連盟(東京)と地元実行委員会の共催で年1回開催され、四国では第4回琴平ゼミ(香川県)以来27年ぶり、愛媛県では初めての大会となります。

全国町並ゼミ第1回大会は、昭和31年(1956年)に愛媛県の有松・足助で開催されました。その時の大会宣言で、「地域の創造の主体は、住民であり、自治体であり、それに協力する専門家である。この3者が、それぞれの特性を生かし協力関係を築き上げていくこと」が謳われました。毎年開催される町並ゼミには、全国各地から民間、行政、専門家を問わずまちづくりや住民運動に携わっている様々な顔ぶれの人々が集い、3日間にわたってまちづくり・地域づくりの手法や理念、歴史・文化・環境について、語り合い、学び合い、交流します。

今年の3日間の内容は、1日目(11日)に午後から各テーマにそった分科会を、西予市だけではなく大洲市、宇和島市など7会場に分かれて開催します。西予市では、幕末のたたずまいの残る宇和町・卯之町を始め、城川町の茶堂、宇和町・東多田地区の町並みや歴史、宇和盆地の風物詩「わらぐろ」といったものを題材に、大洲市では「景観と観光」、宇和島市では「民家の再生」などをテーマに開催します。

2日目(12日)からは主会場である愛媛県歴史文化博物館で「各地からの報告」を中心に全国から町並み保存運動、まちづくり運動についての全国活動事例を報告していただき、日本各地の今を知ること、今後の進展、方策や問題点について考えます。四国からいくつかご報告していただく予定です。

3日目(13日)には統括討議として「住

TALK NOW

トークナウ

だんだん学ぼう よもよも人づくり

全国町並みゼミ
卯之町大会
実行委員長
大氣 博志



53年(19978年)に愛媛県の有松・足助で開催されました。その時の大会宣言で、「地域の創造の主体は、住民であり、自治体であり、それに協力する専門家である。この3者が、それぞれの特性を生かし協力関係を築き上げていくこと」が謳われました。毎年開催される町並ゼミには、全国各地から民間、行政、専門家を問わずまちづくりや住民運動に携わっている様々な顔ぶれの人々が集い、3日間にわたってまちづくり・地域づくりの手法や理念、歴史・文化・環境について、語り合い、学び合い、交流します。

民と歴史的まちづくりに関わる仕組み、過去・現在・未来」と題し、国重要伝統的建造物群保存地区、登録文化財、景観法、そして歴史を絡めた最新の法律・制度を使って、歴史的環境を守る仕組みについて、西村幸夫(東京大学大学院教授)、後藤治(工学院大学教授)両氏にお話していただきます。この機会に、私たちの故郷について全国の方たちとの交流を通して共に学んでいただけたらと思います。

今回の大会テーマは、「だんだん学ぼう、よもよも人づくり」としました。「だんだん」は、方言でありがとうの意味で、感謝をしながら段々(一歩ずつ)学ぼう。「よもよも(注)」は、いろいろな意見をくみ取りながら人づくりをしようと考えました。また、サブテーマとして「ようきなはった、お接待の里へ」。四国はお遍路。わたしたちの体の中に染込んだ「お接待」の文化にも全国の方にふれて感じていただけたらと願って決めました。

この大会を、全国の方たちとの交流、地域の交流を広げるまたとない機会と考えています。たくさんの方のご参加をお待ちしています。

(注) よもよもとは、方言よもだの連続した形で、決している意味で使われている言葉ではありません。理不尽な言い分をひっぱったり、反対したりする場合によく使われます。しかし、今回は敢えて「人とは違う意見を言う」とよい意味で捉えております。